

審査会会長からのコメント

年々申請数が増え、審査委員会一同嬉しい悲鳴をあげています。実際、これだけの申請の内容を審査するのも大変で、プレゼン当日だけでも朝から夜までほぼ一日がかりです。もちろんそれだけではなく、ハードの整備が関係するような申請の場合には現場視察なども行いますし、審査委員会としての判断を決定する際にはいろいろな角度からの意見が噴出し、決着をつけるのに大変時間がかかったりします。

しかし、申請の書類やプレゼンを見せていただくと、いかに市民のみなさんがまちづくり活動に情熱を注いでいらっしゃるかが伝わってきて、こちらにも熱が入ってきます。それだけにプレゼンの際の質疑においても、細かな所にまで説明を求めたり、審査を超えたアドバイスなどにも踏み込んでしまったりという場面も出てきたりします。どうかこの点、ご理解いただければと思います。

また今回は、ハードの整備に対する助成である「トライ」、そしてその準備のための「スクラム」への申請も出ました。ハードの整備に係るものは金額も大きく、また対象の地域の建築条件、物件の所有者との話し合い等、難しい問題も出てきますのでハードルが高くなりがちですが、なかなか他のところではない助成金です

ので、これからも奮ってチャレンジをお願いできればと思います。

いつも機会があればお伝えしていることですが、この助成金は公的なお金を使っただくものですので、私たち審査委員会としても、どうしてもその性質を踏まえて判定をせねばなりません。ですので、審査委員会のメンバーが個人的には「面白い」、「ぜひ応援したい」と思うような活動でも、公的なお金を使っただくという点などからどうしても採択が難しい場合や、費用を部分的に削っただく場合が出てきます。これは、決してその活動の意義が低いと評価したわけではないのです。そもそも市民の自発的な活動に優劣などつけられません。ですので、今回は期待していた結果に至らなかったという場合でも、どうか胸を張って活動を続けてください。

もうひとつお願いしたいことは、この助成金をいろいろな人に知らせてあげていただきたいということです。東大阪のまちづくりの成果を高めるには、できるだけ多くの人、いろいろな立場の人がまちづくりを自分のこととして関わるのが何より大切です。この助成金がそうしたきっかけになればというのが私たちの願いなのです。この助成金を何度か受けて活動が軌道に乗ったという方も、ぜひ後につこうという人たちを励ましてあげてください。

また、いっしょにできることを見つけてください。

来年のプレゼン会場が、申請をしている人たちだけでなく、これから申請を試みようかなと考えている人、もう助成金は卒業したという人、いっしょに何かやれる活動はないかと様子見に来た人など、いろいろな人たちの出会いの場となりますように。